



2012-13 年度 R I のテーマ「奉仕を通じて平和を」
 R I 会長 田中作次 (Peace Through Service)
 八戸南ロータリークラブ会報
 例会日：毎週木曜日 12：30 例会場：八戸パークホテル



ガバナー 松本 康子 会長 熊谷 道雄 幹事 伊藤 斉 会報委員長 山子 則男
 ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：hsrclub@hi-net.ne.jp
 RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org>

第 1806 回例会記録 ゲスト卓話例会
 2012 年 10 月 11 日 (木) 点鐘 12：30

レポート NO.1258

1806 回例会要旨

- ・ 会長要件
- ・ 幹事報告
- ・ 各委員会報告 (出席、親睦)
- ・ ゲスト卓話

光星学院高校野球部監督 仲井宗基様

ゲスト

仲井宗基様 (光星学院高校野球部監督)

会長要件 熊谷会長

こんにちは、今日はスペシャルゲストで沢山お話しをしていただきたいので会長要件はなしです。

幹事報告 伊藤幹事

- * RA 年次大会が 12 月 1 日弘前で行われます。
- * アクトの翼の案内 1/10 ~ 13 台湾です。

ニコニコ・ボックス 平光親睦委員

伊藤幹事：仲井監督ようこそ。今日はよろしくお願ひします。

村上会員：仲井監督ようこそ。今日はよろしくお願ひします。

法官会員：仲井監督さんご苦労様でした。

平光会員：仲井監督よろしくお願ひします。

工藤会員：仲井監督本日よろしくお願ひします。

小原会員：仲井監督ようこそ。お話しを楽しみにしています。

本人誕生祝：小笠原会員

結婚記念日：熊谷会員 (仲井先生ようこそ！！)



ゲストスピーチ例会

ゲスト紹介：法官会員

こんにちは。こう言う役回り、同じ職場で理解しています。仲井先生の経歴はプリントで短く紹介しています。同じ職場にいる人として、仲井先生は本学院が甲子園を目指す事になって3代目です。

津屋監督、金澤監督と光星を育てていただき準優勝まで持ってきてくださいました。重圧があったと思いま

出席報告 吉田出席委員長

正会員 45 名出席免除会員を除く会員 36 名中
 本日の例会は免除会員 4 名を含む 29 名出席率 73%
 前々回例会：メ-キャップ 1 名 出席率 70%

す。学級担任も持っています、今若い教職員のよりどころとなって、立派な仕事をしています。

仲井宗基光星学院野球部監督：



こんにちは、光星学院の仲井です。八戸へに来て 20 年。東北福祉大を卒業しそのまま八戸に来ました。法官副理事長の紹介にありましたように初代津屋監督とセットで光星に来ました。大学 4 年終わったばかりで血気盛んな頃でやってやろうとの強い思いでしたが、

設備がふさわしくありませんでした。がむしゃらにやり、2 年で、洗平がいて、中日へ行った六戸出身ですが、青森で決勝まで行きました。3 期連続準優勝でしたが、やればできるとの期間でした。その秋に東北大会で光星が優勝し、選抜の切符を取りました。3 期、春夏春と甲子園に行けるようになりましたが、全国の壁は厚く、いずれも初戦敗退で厳しいものを味わいました。2 年明けて、根市投手で夏の甲子園へ行き、太田幸治以来のベスト 4 進出。名を残すきっかけとなりました。その頃から青森山田が本腰を入れチーム強化をして、うちは甲子園に行く事が出来なくなりました。

津屋、金澤と全国に通用するチーム作りをやり、甲子園に勝つチームは技術も大切ですが、人間性が必要と思いました。私が監督になり、人間性と心が強くないと勝てないと方針を転換しました。それまでの財産もありましたが、人間性をと、頭ごなしに叱って強制しても駄目で、自主性を育てレベルの高い野球をと、生活をしつけることにして、このような成果が上がったのです。私が監督 1 年目、八戸工大一高に敗れ、甲子園に行けなかったのですが、負けて気づくことも多々ありました。夏に負けて練習を見直さなければな

らないと生徒の生活を見たら、食事を粗末にする。好き嫌いがある。残す。だらしのない生活。そこから見直し、そして皆さんに応援してもらえるチームにならなければと思いました。食事、挨拶、授業態度。野球と違いますが、徹底的に見直しました。小さな子をしつければと同じ、何度も注意し、80人いたら80回同じことを繰り返して行くうちに、1度言えば良いチームに変わりました。そして学校の中でも応援してもらえるチームになりました。初めて選抜に行った春、3.11災害のあった時で、沖縄にキャンプしていました。初めての監督、何とか勝ちたいと沖縄での調整を法官校長にお願いして行っていました。一度八戸に戻る予定でした。八戸に戻る時、羽田に着く時に震災を知り、羽田に着けなくて関西空港へ行き、そして沖縄に戻されました。その間こちらの状況が見えていませんでしたが、沖縄で見て、とんでもない状態だと分かりました。部長の小坂の実家も津波にやられましたし、当時安否が分からない人もいました。沖縄に2日間いました。法官校長から心配するな、そのまま甲子園へ行って戦えといわれ、その言葉に励まされました。そして本校初の春一勝をあげました。夏の大会も無我夢中で、震災の中で野球をさせて頂いたとの気持ちと光星に明るい話題をと、選手は準優勝という結果を残しました。しかし帰ってきたら不祥事があり、人生一寸先は闇と、心にスキが出たのかなと思いました。法官前校長、橋場現校長が、スタッフは守ると言ってくれました。私は、組織は守るという事であり、組織は家族であると思えます。クラスや学校、家族など全て組織イコール守るという事だと思えます。守るといわれた時に光星の為にやってきたこと、そしてがんばって行く事を取り返せなくても、一から愛される野球部を作っていくかなければと思いました。やった子も私にとっては可愛い子供たちで私が守らなければとの思いでした。秋、勝つよりも感謝の気持ちをとのチームで、信じられない力を発揮してくれました。

キャプテンの田村、やんちゃな子です。中学校の時は素行の良い子ではなかったのですが、今は立派な子に育っています。甲子園の決勝に残ったチームは朝日新聞主催の懇親会に出ます。そこで田村は「私は大阪出身ですが、八戸に育てられた、八戸に恩返しをしたい」と言っていました。いろいろ問題がありましたが、帰ってきたら浜須賀保育園の園庭を整備したり、公民館へ差し入れでもらった飲み物を届けたりして、当たり前前に野球をやっていることが、どれだけ大切なことかとあの子は感じたと思えます。甲子園でもチームをまとめ辛抱強いプレーをしてくれました。

先ほど組織イコール守ると言いました。記録員の斉藤はグラウンドには出ることはなかったのですが、記者の取材で家族みたいなチームですと言っていました。

家族=守る。組織の原点です。斉藤がそう言ってくれて、やってきてよかったと感じています。

4季行って、3季準優勝。結果を出させて頂いたのも突然出来たのではなく創立から綿々と受け継いで来た事で、先輩の思い、青森県や東北の人々の思い、優勝旗がまだ白河の関を越えていませんが...その方たちの思いもあって、今この結果が出たとの思いもあります。自分たちだけがいい思いをしたのではなくこれからもいろいろなところから出て欲しい、もちろん私たちは一番手でありたいとの思いはありますが...。先日の東北大会で7点差をひっくり返され、7点差でコールド負け。これもどこか私の心の中に隙があったのではと思います。国体にも今新チームで行きます。残り2回のうちの1回をつぶしてしまったとの後悔もあります。これから自分の子供以上に厳しく温かく見守り、野球部を作っていきたいと思っています。まだまだ未熟で課題が多く、お叱りを受けることがあると思えますが、前を向き愛される野球部を作っていこうと思っています。

ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

【フロアから】

豊川会員：私はずっと光星の野球を見ていました。金澤監督は選手に気合いをかけていました。仲井監督はニコッと笑って適格な指示を出していました。ホテルにも野球部出身が3名います。聞いてみたらそうだと聞いています。若い子はガンガン言われても頭に入らないです。試合中は適格な指示と改めて感じました。卒業生にもプライドを持って仕事をしろと言っています。私の朝野球も優勝までもう一歩です。

質問：ジャイアンツの坂本選手は甲子園に出ていないと思えますが、甲子園では良いピッチャーか、良いバッターどちらが大事ですか？

仲井監督：坂本は一度出ていますが、岡山に敗れています。どちらが重要かというピッチャーだと思えますが、全国制覇するにはどれ一つ欠けても駄目です。ピッチャーも攻撃も。あとプラスアルファの人間性です。チーム作りのベースは守りです。

質問：北条と坂本はどっち？

仲井監督：坂本は184センチで北条は176センチ。坂本の方が素材的には一番です。(洗平は？と聞かれ)球に力がありましたが、コントロールはいまいち。青森のピッチャーは力が強いです。熊谷会長：今日のお話をお聞きして人間性が基本であるとのこと。つくづくそう思います。ありがとうございました。

